

日本での交換留学

東呉大学

シュ エキアン

冬の寒さと静けさを越え、枝先に新緑の芽が顔を出す頃、それは春の訪れを告げると同時に、私の日本での交換留学生活が静かに幕を下ろそうとしていることを感じさせます。

この五ヶ月間を振り返ると、書籍では得られない貴重な経験を数多く学びました。まず、異なる文化的背景を持つクラスメイトたちとの交流を通じて、多文化への理解と尊重が深まりました。授業でのディスカッションや日常の会話を通じて、文化ごとに異なる価値観や思考方法を知り、視野を広げると同時に、より柔軟な心で物事を見つめられるようになりました。



学業面では、授業が実践的な参加と議論を重視しており、これまでの学習スタイルとは大きく異なりました。グループワークや発表を通じて問題解決力を磨き、異なる環境で育った人々と協力する方法を学びました。また、日本文化の多様な側面にも触れ、知識をさらに深めることができました。

生活面では、私と一緒に新しい体験を共有してくれた友人たちに感謝しています。初めて球場で観戦した野球試合では、台湾チームが強敵を倒して世界一となる瞬間を目の当たりにしました。また、東北地方の雪景色や東海地方で見た海瀬など、今まで写真でしか見たことのない景色に感動しました。私は元々活躍な人間ではないので、もし皆さんと一緒にいてくれなかったら、こうした経験はできなかったかもしれません。

それ以外にも、たくさんの人に感謝を申し上げたいと思います。国際課の大野さん、留學生活を支えてくださり、安心して毎日を過ごすことができました。

音羽館管理室のスタッフの皆さん、困ったときに親切に助けていただき、問題を解決することができました。国際教育センターのAAメンバーの皆さん、いつも楽しい文化イベントを企画してくださり、日本文化を深く体験し、皆さん



との交流の時間を楽しむことができました。指導教官の斎藤先生、毎回迅速に返信をくださり、貴重なアドバイスと指導をしてくださったことに感謝しています。私が受けた授業を担当した先生方、興味深く引き込まれる内容の授業を提供していただき、多くの知識を得ることができました。

五ヶ月という時間は人生の中では短いかもしれませんが、しかし、この期間で得た経験や思い出は、私の心に深く刻まれています。初春の新芽のように、これは一つの終わりであると同時に新たな始まりでもあります。この経験を成長の糧にし、これからも自分を高めていきたいと思います。